

ことのは

「リーダー」



西成消防署長
橋口 博之

「リーダーに向いてる人」というと、行動力があって、精神的に強い人をイメージする人が多いと思う。リーダーは、その人がもつ個性を活かすことで、リーダーの役割を果たし、組織としての成長が果たせるものである。

災害現場におけるリーダーについては、具体的な指示を出す立場であり、特に、我々消防においては、初動の対応を見誤ると、災害の拡大へとつながることから、「頑張れ、うまくやれ」という指示ではなく、いかに迅速・的確に具体的な指示を行うかが重要である。危機を予測し、対策等の実施により、発生確率の低減、被害の軽減が図られるものである。また、危機発生前の平時におけるリーダーのありようが、危機発生時の対応を左右する面がある。「治にいて乱を忘れず」という言葉があるように、平時において常に非常時を想定して準備と対応を怠らないようにすることで、必要なリーダーとなれるか、危機が到来した時のリーダーのありようを考えておく必要がある。

7月10日深夜、管内の事業所において、大規模な炎上・火災が発生し、継続した爆発を繰り返しており、炎が高々

と舞い上がっていた。災害現場では、懸命な消火活動が展開されており、長時間の活動が予測される中、方面隊長が到着し、災害状況の把握を瞬時に行うとともに、泡消火中隊長を含む各小隊への詳細な活動方針の徹底が図られたことにより、泡放水による鎮圧へと至った。これぞ、災害現場で培われてきた大阪消防の指揮能力をもったあるべきリーダーの姿と思った。

職務を行う上では、あらゆるリーダーが存在することとなるが、そのリーダーの進め方で方向性が決まることとなる。その方向性を見誤らないように、知識、技術の習得を含め普段からあらゆる努力を行い、職員から信頼されるリーダーを目指したいものである。

